

2.【個別】決算の概要

(1)個別経営成績

当期の販売数量は、4,458万KLと前期比98.6%、65万KLの減販となりました。
一方、売上高は1兆6,787億円と前期比99.9%、21億円の減収となりました。

営業利益ベースでは、「新中期経営計画」に取り組み、その成果として価値創造及び合理化が145億円達成でき収益改善に寄与しました。また、製品市況の状況が昨年に比べ改善したことなどで147億円のプラスとなりました。
しかし、販売数量は、ガソリンやC重油は堅調に推移しましたが、暖冬など国内需要減退の影響を受け灯油・軽油及びA重油は減少し、数量面では17億円のマイナスとなりました。また、たな卸資産の総平均法による在庫評価の影響で、売上原価を当期には95億円押し上げたこと、前期には173億円押し下げたことにより差引き268億円のマイナスとなりました。
以上の結果営業利益は130億円となり、前期比7億円の増益となりました。

営業外損益では 支払利息の削減に努めたものの、関係会社配当金などの減少により金融収支で5億円のマイナスとなったこと、為替差益が3億円・雑損益が19億円マイナスとなったことで、経常利益は71億円となり、前期比20億円の減益となりました。

なお、当期純利益は特別損益で固定資産の除却・撤去費などが発生したため15億円の損失を計上し、法人税等を控除した結果、31億円となりました。

(2)個別財政状態

当期末における総資産は、1兆1,095億円となり、前期末に比べ279億円増加しております。これは、連結同様、休日の影響で揮発油税・石油税等の支払がずれ込んだことで手元資金が増加したことや、売掛債権などが減少したことによるものです。

(3)平成16年3月期 決算の概要【個別】

【経営成績】	当 期	前 期	増 減
販 売 数 量	44,583千KL・t	45,236千KL・t	653千KL・t (1.4%)
売 上 高	1兆 6,787億円	1兆 6,808億円	21億円 (0.1%)
営 業 利 益	12,965百万円	12,243百万円	722百万円 (5.9%)
経 常 利 益	7,056百万円	9,062百万円	2,006百万円 (22.1%)
当 期 純 利 益	3,109百万円	2,761百万円	348百万円 (12.6%)

【配当状況】

配 当	一 株 当 たり 6 円	一 株 当 たり 6 円	増 減 な し
配	一 株 当 たり 6 円	一 株 当 たり 6 円	増 減 な し

【財政状態】

【財政状態】	当期末	前期末	増 減
総 資 産	1兆 1,095億円	1兆 816億円	279億円
株 主 資 本	1,702億円	1,650億円	52億円
株 主 資 本 比 率	15.3%	15.3%	0.0%
有 利 子 負 債 額	4,943億円	4,970億円	27億円
有 利 子 負 債 比 率	44.6%	45.9%	1.3%

3.平成17年3月期の業績予想

(1)石油業界を取り巻く環境は、国際情勢等の影響による原油価格動向の不透明さに加え、市況低迷の長期化、環境問題への対応等、依然として厳しい状況が続くと思われませんが、当社グループでは、「連結中期経営計画」の確実な達成・実現により、一層強固な経営基盤を確立することで、主力の石油事業の更なる競争力・収益力の強化を図り、平成17年3月期 通期の見通しにつきましては、連結売上高 1兆9,100億円(個別 1兆6,700億円)、連結経常利益 340億円(個別 150億円)、連結当期純利益 150億円(個別 80億円)、の達成を目指してまいります。

(2)平成17年3月期【連結】決算の業績予想

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
中 間 期	9,000億円	12,000百万円	8,500百万円	2,500百万円
通 期	1兆 9,100億円	39,000百万円	34,000百万円	15,000百万円

(3)平成17年3月期【個別】決算の業績予想

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	配 当
中 間 期	7,700億円	4,500百万円	1,000百万円	500百万円	一株当たり3円
通 期	1兆 6,700億円	22,000百万円	15,000百万円	8,000百万円	一株当たり6円

(前提)

- ・原油 (FOB) : 29 \$/B , 為替 : 110円/\$ (通期)
- ・原油処理 : 需要に見合った生産
- ・販売数量 : 内需燃料油計 97.2% (通期)
- ・「新中期経営計画」 : 年間 144億円